

〔島内流通農産物・島外出荷向け農産物の安定生産技術の開発〕

島内供給野菜の作型開発

～短形ダイコンの品種特性の把握～

河野 章・小野 剛

(小笠原亜熱帯農業センター)

【要 約】小笠原における秋まきの短形ダイコンの収穫日数は10月下旬播種で約85日、11月上旬播種で約90日、11月中旬播種で約93日であった。外観の評価が高く、葉付きでの出荷に有利な「味いちばん」が有望品種である。

【目 的】

小笠原においては消費者の新鮮な島内産農産物に対するニーズが高い一方で、供給体制が整っていないのが現状となっている。そこで、根菜類のなかで最も消費量の多いダイコンに着目し、なかでも作業労力が軽減され、流通・消費の面でのメリットが高い短形ダイコンについて、島内消費に向けた作型・品種を把握する。

【方 法】

供試品種は「味いちばん」他4品種を用いた。播種は2006年10月25日から11月15日にかけて1週間おきに4回行った。ベット幅140cm、条間30cmの4条播きとし、株間は25cmとした。本葉6枚時に間引きを行った。基肥は成分量でN-P₂O₅-K₂Oを15-10-10kg/10aとした。収穫調査は各品種各回10株ずつ行った。

【成果の概要】

- 1) 栽培期間中の平均気温は全体的に高く推移し、12月が平年より約2℃、他の月は平均より約1℃高かった。降水量は11月が平年の約半分と少なかったが、他の月はほぼ平年並みに推移した。
- 2) 11月1日に播種したものについて収穫調査結果を示した(表1)。根重は「味いちばん」が最も重く1031.3gであった。根長は「おこのみ」が14.1cmと他の品種に比べて低い値を示した。葉重については「おこのみ」が565.0gと最も重く、葉長、葉数についても最も高い値を示した。「味いちばん、葉根っこ、ホワイトスティック」が根部の揃いが良かった。
- 3) 播種日ごとの品種別収穫日数を示した(表2)。10月25日播種で84～86日、11月1日および8日播種で89～90日、11月15日播種で93～94日であった。
- 4) 品種別の外観の特徴を示した(表3)。「葉根っこ、ホワイトスティック」は草姿が立性で密植が可能であることが推定されるが、風による葉折れが目立った。「味いちばん」は、つまり、肌の白さなどの各項目で評価が高かった。
- 5) 以上から、小笠原における秋まきの短形ダイコンの収穫日数は10月下旬播種で約85日、11月上旬播種で約90日、11月中旬播種で約93日であった。「味いちばん」は肌の白さ、毛穴など外観による商品性が最も高かった。また、葉のトゲが少なく葉数も多いことから、島内への葉付きでの出荷を行ううえで有望な品種である。

表1 品種特性 (11月1日播種)

	葉色 (SPAD 値)	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉重 (g)
味いちばん	41.0	1031.3	20.1	9.6	51.6	18.5	336.3
おこのみ	34.2	743.3	14.1	9.8	60.2	21.6	565.5
葉根っこ	40.1	732.5	18.9	8.1	36.9	17.9	159.5
春つくし	39.6	786.3	20.2	8.2	43.8	14.9	165.0
ホワイトスティック	39.7	832.5	19.8	8.4	40.8	18.5	194.0

表2 播種日別収穫日数

播種日	収穫日数 (日)			
	10月25日	11月1日	11月8日	11月15日
味いちばん	84	89	89	93
おこのみ	84	89	89	94
葉根っこ	85	89	89	93
春つくし	84	90	89	93
ホワイトスティック	86	89	89	93

表3 外観の特徴

	草姿	つまり ^a	毛穴 ^b	肌の白さ ^c	割れ ^d	葉トゲ
味いちばん	開帳	2	2	2	1	少
おこのみ	開帳	3	3	3	1	少
葉根っこ	立性	2	2	2	1	多
春つくし	開帳	4	4	3	1	少
ホワイトスティック	立性	4	2	2	1	多

a)つまり 1 (良) - 5 (悪)

b)毛穴 1 (浅) - 5 (深)

c)肌の白さ 1 (白) - 5 (着色)

d)割れ 1 (少) - 5 (多)